



大切にしたい鴛野小学校の伝統



上の写真をご覧ください。4月8日の始業式の日の靴箱です。靴のかかとの部分が見事に板の端にそろえて入れられています。

もちろん、靴箱を撮影するなどということは、子どもたちは知りません。いつも通りに入れたのでしょ。驚くべきは、予期せぬ休校となり約一ヶ月のブランクがあったにもかかわらず、ここまで整然とそろっていることです。

この靴を見て、鴛野小学校の子どもたちの素晴らしさを感じました。残念ながら、今は子どもたちには会えないのですが、学校再開後には子どもたちを存分にほめてあげたいと思います。

私は教員ですから、この整然とそろった靴を通して、これまでの鴛野小の先生方の指導を感じ取ります。このような状態になるまでには多くの苦労があったことでしょう。そして、このようなことに取り組もうとしたのには、それなりに理由があったのだろうとも推測します。このような先輩の先生方の努力によって現在の鴛野小学校があることを忘れてはいけません。



靴をそろえるといえば、忘れられない言葉があります。

脚下照顧(きゃっかしょうこ)

学研「四字熟語辞典」によると、意味は「身近なことに十分気をつけるべきだということ。また、自分のことをよく反省すべきだということ。他人にとやかく言う前に、まず自分自身を見つめ直せという戒めのことば。」だそうです。転じて「履物をそろえなさい」という意味でも使われています。鎌倉時代の僧である孤峰覚明(こほう かくみょう)の言葉がもとになっているそうです。

次の詩も印象に残っています。

はきものをそろえると 心もそろう
心がそろくと はきものもそろう
ぬぐときにそろえておくと
はくときに心がみだれない
だれかがみだしておいたら
だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと
世界中の人の心もそろうでしょう

長野県円福寺の住職である藤本幸邦(ふじもとこうほう)氏は「脚下照顧」の考え方を上のようにわかりやすく詩にしたのだそうです。

教育者であり哲学者である森信三(もりしんぞう) *戸籍名は(のぶぞう) 先生は「しつけの三原則」という家庭教育の指針を提唱しました。

- 1、朝、自分からあいさつをすること
- 2、名前を呼ばれたらハイと返事をする
- 3、靴を脱いだらそろえ、席を立ったらイスを入れること

私たちは「しつけの三原則」にもある「靴をそろえる」という鴛野小の伝統をこれからも継承していきたいと考えています。

鴛野小学校のゆるキャラ完成！名前募集中

前任校である千歳中学校では「ひよこたん」なる「ゆるキャラ」を作りました。3年間で生徒には十分浸透し、地域の方々にも少しずつ知られていきました。

「ひよこたん」は12月の第一日曜に行われる「ひょうたんまつり」に登場する「ひょうたんさま」をモチーフにしています。

豊後大野市内の小中学校でも「ゆるキャラ」がある学校は、ほとんどなく、生徒にとって自慢になっていました。

3月末、鴛野小学校に転任が決まったときに「ゆるキャラ」を作ることを密かに決意。鴛野小ならオシドリをモチーフに作るしかない！と決めていました。

以来、スケッチを描いては消しを繰り返しました。いいものができたと思っても周囲の者から「かわいくない」と評価を受け、ボツにしたり、パソコンで描くには難しすぎたりして、なかなかできませんでした。苦労の末、ある程度のもので済ませましたので、「鴛野小通信」第2号を通じて紹介したいと思います。右が、そのゆるキャラです。学校再開後に子どもたちに名前をつけてほしいと思います。できれば、名前の中に「鴛野」「おしの」「オシノ」という言葉が入ればいいなと思います。

鴛野小のみなさん、ピッタリな名前を考えておいてくださいね。期待しています。

ボクの名前はひよこたん。
千歳中学校のゆるキャラだよ。



ボクが鴛野小学校のゆるキャラだよ。名前は、まだないんだ。ボクの名前をつけてね。



藤の花を見て願う

正門横にある藤棚に今を盛りとばかりに藤の花が咲いていました。まるで薄紫のシャンデリアのようです。例年であればゴールデンウィークに開催される大分市西寒田神社の藤まつりも、今年はどうでしょうか。多くの方が藤の花を愛でることができる世の中になればいいなと願っています。

